

- 問1 佐賀県に位置する弥生時代の代表的な遺跡では、居住エリアの周囲を二重の濠（ほり）や高い柵が囲んでおり、外敵を監視するための物見櫓（ものみやぐら）の跡も見つかっています。この遺跡の名称と特徴の組み合わせとして正しいものはどれですか。（2022年 沖縄県公立入試 類似）
- | | | | |
|----------------------|------------------------|--------------------------|-----------------------|
| 1. 吉野ヶ里遺跡 — 大規模な環濠集落 | 2. 登呂遺跡 — 仏教寺院が建立された集落 | 3. 板付遺跡 — 広場に川が流れる開放的な集落 | 4. 三内丸山遺跡 — 縄文時代の巨大集落 |
|----------------------|------------------------|--------------------------|-----------------------|
- 問2 弥生時代の人々が、収穫した米を保存する建物の床を地面から高く設計した理由として、当時の工夫を説明したものとして最も適切なものはどれですか。（2018年 山形県公立入試 類似）
- | | | | |
|--|--|---------------------------------------|------------------------------------|
| 1. 風通しを良くして湿気を防ぐとともに、ねずみなどの害獣が侵入するのを防ぐため | 2. 床下を家畜の飼育スペースとして利用し、限られた土地を有効に活用するため | 3. 洪水が発生した際に建物全体が水に浮くようにし、米が濡れるのを防ぐため | 4. 敵に米を奪われないよう、床下に深い穴を掘って隠し場所を作るため |
|--|--|---------------------------------------|------------------------------------|
- 問3 邪馬台国の女王卑弥呼が、当時の中国の王朝である魏に使いを送った背景やその後の状況を説明した文として、最も適切なものを選びなさい。（2023年 山形県公立入試 類似）
- | | | | |
|--|---|--|---|
| 1. 魏の皇帝から「親魏倭王」の称号や金印を授かることで、国内の小国に対する自らの権威を高めようとした。 | 2. 倭の奴国の王として、後漢の皇帝から金印を授かり、九州地方の交易の利権を独占しようとした。 | 3. 秦の始皇帝に対して不老不死の薬を献上することで、国内の争いを鎮めるための軍事支援を求めた。 | 4. 大陸の優れた仏教文化を直接取り入れるために、公式な使節として小野妹子を魏の都へ派遣した。 |
|--|---|--|---|
- 問4 7世紀初め、推古天皇の摂政であった聖徳太子は、小野妹子を遣隋使として中国の隋へ派遣しました。その際、中国の皇帝に宛てた手紙の中で「日出づるところの天子、書を日没するところの天子に致す…」という有名な一節を記しました。この外交姿勢の背景にある、従来の中国との関係からの変化について、正しい説明を選びなさい。（2024年 宮城県公立入試 類似）
- | | | | |
|---|---|--|---|
| 1. 日本の天皇を中国の皇帝よりも上位に位置づけ、中国を日本の属国にしようとした。 | 2. 中国の皇帝に対して臣下として従う従来の形式をとりつつも、対等な立場での外交を目指そうとした。 | 3. 中国の皇帝からの称号を拒否し、完全に国交を断絶して鎖国体制を築こうとした。 | 4. 中国の皇帝に対して朝貢を一切行わず、民間商人による自由貿易のみを求めるようになった。 |
|---|---|--|---|
- 問5 3世紀頃の日本の様子について記された歴史書に関連して、女王卑弥呼が中国の王朝である魏に使臣を送った際、魏の皇帝から授けられた称号と金印の内容として正しいものを次の中から選びなさい。（2019年 茨城県公立入試 類似）
- | | | | |
|-----------------|---------------|---------------|-----------------|
| 1. 「日本国王」の金印と勘合 | 2. 「漢委奴国王」の金印 | 3. 「征夷大將軍」の宣旨 | 4. 「親魏倭王」の称号と金印 |
|-----------------|---------------|---------------|-----------------|
- 問6 3世紀、邪馬台国の女王であった卑弥呼は、中国の王朝に使いを送り、その皇帝から「親魏倭王」という称号や金印、さらには多くの銅鏡を授けられたと記録されています。このとき、卑弥呼を倭の王として正式に認めた中国の王朝を選びなさい。（2021年 奈良県公立入試 類似）
- | | | | |
|------|------|------|------|
| 1. 秦 | 2. 魏 | 3. 唐 | 4. 隋 |
|------|------|------|------|
- 問7 弥生時代に始まった、青銅器と鉄器の使い分けに関する背景について、正しい説明はどれですか。（2026年 北海道公立入試 類似）
- | | | | |
|---|--|---|--|
| 1. 石器から鉄器への移行を嫌った指導者たちが、妥協案として青銅器を儀式に導入した | 2. 青銅器は弥生時代の中頃に全て回収され、その原料はすべて鉄器の製造に再利用された | 3. 鉄器が実用的な武器や工具に用いられる一方で、青銅器は主に集団をまとめるための祭礼や権威の象徴に特化していった | 4. 青銅は鉄よりも耐久性に優れていたため、大規模な土木工事の道具としてのみ使われた |
|---|--|---|--|
- 問8 弥生時代に製作された青銅器の一種で、兵庫県の五十六点や島根県の五十四点をはじめ、滋賀県や和歌山県といった近畿地方の府県で多くの出土が確認されている、豊作を祈るなどの祭礼に用いられた道具を何というか。（2024年 京都府公立入試 類似）
- | | | | |
|-------|-------|--------|-------|
| 1. 銅鐸 | 2. 銅矛 | 3. 石包丁 | 4. 勾玉 |
|-------|-------|--------|-------|
- 問9 弥生時代に大陸から稲作が伝わり、食料を蓄えることが可能になったことで生じた社会の変化について、最も適切な説明を選んでください。（2021年 神奈川県公立入試 類似）
- | | | | |
|--|--|---|--|
| 1. ナウマン象などの大型動物を狩猟するために、人々は移動を繰り返しながら生活するようになった。 | 2. 表面に縄目の文様がある、厚手で黒褐色の土器が全国的に作られるようになった。 | 3. 政府から農民へ平等に土地が割り当てられ、収穫した稲を税として納める制度が整った。 | 4. 土地や水の利用、蓄えた食料などをめぐって、ムラの間で争いが起こるようになった。 |
|--|--|---|--|
- 問10 3世紀の中国の歴史書には、当時の倭（日本）の様子が詳しく記されています。邪馬台国の女王である卑弥呼が亡くなった際、直径100余歩（約150メートル）もの大きな塚が造られ、100人余りの奴隷と一緒に埋められたといった、当時の社会の様子や埋葬の風習を伝えている資料の名称を選びなさい。（2024年 沖縄県公立入試 類似）
- | | | | |
|------------|------------|------------|-------------|
| 1. 「漢書」地理志 | 2. 「隋書」倭国伝 | 3. 「魏志」倭人伝 | 4. 「後漢書」東夷伝 |
|------------|------------|------------|-------------|
- 問11 1世紀頃の東アジアにおいて、中国の皇帝が周辺国の支配者に対して「みつぎ物」の見返りとして「称号」や「印」などを与える国際秩序がありました。倭の王が中国へ使いを送った歴史的背景や目的として最も適切な説明はどれですか。（2019年 長野県公立入試 類似）
- | | | | |
|---|--|--|---|
| 1. 中国の皇帝に臣下として認められることで、自らの支配者としての地位を国内や周辺に示そうとした。 | 2. 朝鮮半島北部の小国として、中国の強力な武力による直接支配から逃れるための許可を求めた。 | 3. 中国と対等な立場で外交関係を築き、軍事的な同盟を結ぶことで領土を拡大しようとした。 | 4. 仏教などの新しい宗教を中国から正式に導入し、国を治めるための思想として活用しようとした。 |
|---|--|--|---|
- 問12 中国の歴史書とそこに記された倭（日本）に関する記述の組み合わせについて、記述内容から判断して「魏志」倭人伝の説明として最も適切なものを選びなさい。（2024年 沖縄県公立入試 類似）
- | | | | |
|---|--|---|--|
| 1. 倭王が中国の皇帝に対し、自らを「日出づる処の天子」と称する国書を送ったとする記述 | 2. 倭人が100余りの国に分かれ、朝鮮半島の楽浪郡に定期的に使者を送っていたとする記述 | 3. 邪馬台国の卑弥呼が使いを送り、死後には大きな塚が作られて100人余りの人々が殉葬されたとする記述 | 4. 倭の奴国の王が後漢の皇帝から金印を授かり、のちに倭国全体で大きな乱れが起きたとする記述 |
|---|--|---|--|
- 問13 3世紀の日本において、邪馬台国の女王であった卑弥呼は、中国の北部に位置した「魏」という国に使節を送りました。その際、魏の皇帝から授けられた称号として正しいものを、次のうちから選びなさい。（2021年 香川県公立入試 類似）
- | | | | |
|---------|----------|--------|----------|
| 1. 親魏倭王 | 2. 征夷大將軍 | 3. 遣隋使 | 4. 漢委奴国王 |
|---------|----------|--------|----------|

答え合わせ・解説

問1	答え 1 吉野ヶ里遺跡 ― 大規模な環濠集落	佐賀県の吉野ヶ里遺跡は、復元された高い柵や深い濠、そして大規模な物見櫓の跡から、当時の極めて高い防衛意識がうかがえる代表的な環濠集落です。これは、当時の社会が「クニ」へとまとまっていく過程で、集落間の抗争が激しかったことを裏付ける重要な史跡です。
問2	答え 1 風通しを良くして湿気を防ぐとともに、ねずみなどの害獣が侵入するのを防ぐため	収穫した米は湿気に弱く、カビが生えやすいため、床を高くして風通しを確保する工夫がなされました。また、柱の上の部分に「ねずみ返し」と呼ばれる板を取り付けるなど、食料を害獣から守るための構造的な特徴を持っています。
問3	答え 1 魏の皇帝から「親魏倭王」の称号や金印を授かることで、国内の小国に対する自らの権威を高めようとした。	当時の倭は多くの小国に分かれて争っていましたが、卑弥呼が強力な魏の皇帝から「倭の王」として認められ、称号や贈り物を授かることは、周辺の国々に対して自らの政治的正当性を示す外交的な手段でした。この記録が残る『魏志倭人伝』によって、当時の日本に存在した邪馬台国の統治体制や社会の様子が現代に伝えられています。
問4	答え 2 中国の皇帝に対して臣下として従う従来の形式をとりつつも、対等な立場での外交を目指そうとした。	それまでの朝貢外交は、中国の皇帝を上位、周辺諸国の君主を下位とする主従関係が前提でした。しかし、聖徳太子が送った手紙は、日本の君主も中国と同じ「天子」という称号を用いることで、形式上の臣下という立場から脱却し、より対等に近い国際関係を築こうとする意図が含まれていました。これに対し、隋の煬帝は不快感を示しましたが、当時の朝鮮半島の情勢などもあり、日本との関係を維持しました。
問5	答え 4 「親魏倭王」の称号と金印	3世紀に邪馬台国を治めていた女王の卑弥呼は、中国の三国時代における王朝の一つである魏に使者を送りました。これに対し魏の皇帝は、卑弥呼を倭の王として認め、「親魏倭王」の称号と金印、さらに多数の銅鏡などを贈りました。1世紀（西暦57年）に奴国の王が後漢の皇帝から授かった「漢委奴国王」の金印と混同しないよう注意が必要です。
問6	答え 2 魏	3世紀の中国は魏・呉・蜀の三つの国が並び立つ三国時代にありました。日本の邪馬台国を治めていた卑弥呼は、その中の一国である魏に朝貢し、皇帝から「親魏倭王」の称号を得ることで自身の権威を高め、国内の統治を有利に進めようとしたと考えられています。この出来事は、魏の歴史を記した『魏志』倭人伝の中に詳しく記述されています。
問7	答え 3 鉄器が実用的な武器や工具に用いられる一方で、青銅器は主に集団をまとめるための祭礼や権威の象徴に特化していった	弥生時代の日本において、金属器は「実用の鉄」と「祭祀の青銅」という二面的な使い分けがなされていました。稲作の普及に伴って集団が大きくなると、人々をまとめ上げるための儀式や、その集団の頂点に立つ指導者の権威が必要となりました。そのため、美しく加工しやすい青銅器は、実用性よりも、見る人を圧倒するような象徴的な価値を求められるようになったのが大きな背景です。
問8	答え 1 銅鐸	弥生時代には、大陸から青銅器の技術が伝わり、日本では主に祭りの道具として独自に発展した。銅鐸は近畿地方を中心に、四国や中国地方からも多く発見されており、稲作の豊作を願う儀式などで使われたと考えられている。選択肢にある銅矛も青銅器だが、これらは九州地方を中心に多く出土する傾向がある。
問9	答え 4 土地や水の利用、蓄えた食料などをめぐって、ムラの間で争いが起こるようになった。	稲作が普及すると、生産力の向上により食料の蓄え（余剰生産物）ができるようになりました。これにより、蓄えの多寡による貧富の差や身分の違いが生まれるとともに、稲作に不可欠な土地や水の利権をめぐって集落（ムラ）同士の争いが発生するようになりました。こうした争いを通じて、次第に多くのムラを統合する小国が形成されていきました。
問10	答え 3 「魏志」倭人伝	中国の三国時代における「魏」の歴史を記した『三国志』の一部である「魏志」倭人伝には、邪馬台国の女王卑弥呼が魏の皇帝から「親魏倭王」の称号や金印を授かったこと、そして彼女の死後に巨大な墳丘墓が造られたことなどが詳細に記述されています。この記述は、その後の日本における古墳文化の成立を考える上でも重要な手がかりとなっています。
問11	答え 1 中国の皇帝に臣下として認められることで、自らの支配者としての地位を国内や周辺に示そうとした。	当時の倭の王は、東アジアで圧倒的な権威を持っていた中国の皇帝に「朝貢」し、その臣下として認められる（冊封を受ける）ことで、自らの支配の正当性を強化しようとした。これは対等な外交ではなく、中国を中心とした主従関係に基づく国際秩序の中に組み込まれることを意味しています。
問12	答え 3 邪馬台国の卑弥呼が使いを送り、死後には大きな塚が作られて100人余りの人々が殉葬されたとする記述	「魏志」倭人伝は、邪馬台国の政治体制や女王卑弥呼の死、そしてその後の大規模な埋葬儀礼について具体的に伝えています。他の選択肢について、100余りの国に分かれていたとするのは紀元前1世紀頃の「漢書」地理志、金印の授与や倭国の乱れ（倭国大乱）は1世紀から2世紀頃の様子を記した「後漢書」東夷伝、天子を自称したのは7世紀初頭の「隋書」倭国伝の記述です。
問13	答え 1 親魏倭王	中国の歴史書である『魏志』倭人伝によると、邪馬台国の卑弥呼は239年に魏へ使節を派遣しました。当時の倭（日本）は多くの小国が争う不安定な状況にありましたが、卑弥呼は強力な魏との外交関係を結ぶことで、「親魏倭王」の称号や金印、多数の銅鏡を授かり、自らの支配の正当性や権威を高めようとしたと考えられています。